

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成29年6月9日
【四半期会計期間】	第58期第1四半期（自平成29年2月1日至平成29年4月30日）
【会社名】	菱洋エレクトロ株式会社
【英訳名】	RYOYO ELECTRO CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 大内 孝好
【本店の所在の場所】	東京都中央区築地一丁目12番22号
【電話番号】	(03) 3543 - 7711
【事務連絡者氏名】	取締役上席執行役員管理本部長 脇 清
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区築地一丁目12番22号
【電話番号】	(03) 3543 - 7710
【事務連絡者氏名】	取締役上席執行役員管理本部長 脇 清
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 菱洋エレクトロ株式会社大阪支店 （大阪府大阪市北区梅田三丁目4番5号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第57期 第1四半期 連結累計期間	第58期 第1四半期 連結累計期間	第57期
会計期間	自平成28年2月1日 至平成28年4月30日	自平成29年2月1日 至平成29年4月30日	自平成28年2月1日 至平成29年1月31日
売上高 (百万円)	25,418	23,305	98,417
経常利益 (百万円)	519	331	1,545
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	343	218	822
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	195	272	1,998
純資産額 (百万円)	63,547	64,097	64,859
総資産額 (百万円)	76,491	77,567	77,973
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	13.98	8.92	33.54
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	13.91	8.89	33.39
自己資本比率 (%)	83.0	82.6	83.1

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

#### 2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間（平成29年2月1日～平成29年4月30日）における国内経済は、依然として不安定な国外情勢に先行き不透明感を残すものの、足元では企業収益や雇用環境の改善が続いており、総じて緩やかな回復基調となりました。

当社グループの属するエレクトロニクス業界は、IoTやAI/Deep Learningといった新市場や車載分野が堅調に推移する一方、国内の通信インフラや民生エレクトロニクス分野は引き続き厳しい状況が継続いたしました。

このような環境の中で当社グループは、成長戦略に位置付けるIoT分野に向けた取り組みを一層強化しているものの、半導体メーカーの政策変更や主要顧客における生産調整の影響を受けた半導体/デバイスが大きく減少いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は233億5百万円（前年同期比8.3%減）、営業利益は3億25百万円（前年同期比27.4%減）、経常利益は3億31百万円（前年同期比36.2%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は2億18百万円（前年同期比36.4%減）となりました。

売上高の品目別の概況は次のとおりです。

#### （半導体/デバイス）

売上高は120億21百万円で、前年同期より26億80百万円（18.2%）減少しました。  
これは、産業用途向け半導体が減少したためです。

#### （ICT/ソリューション）

売上高は112億84百万円で、前年同期より5億67百万円（5.3%）増加しました。  
これは、パソコン用ソフトウェアや携帯電話ショップ用端末が増加したためです。

セグメントの業績概況は次のとおりです。

#### 日本

産業用途向け半導体が減少したことにより、外部顧客への売上高は196億70百万円で、前年同期より16億58百万円（7.8%）減少し、セグメント利益は3億25百万円で、前年同期より91百万円（22.0%）減少しました。

#### アジア

テレビやアミューズメント機器向け半導体が減少したことにより、外部顧客への売上高は36億34百万円で、前年同期より4億55百万円（11.1%）減少し、セグメント利益は8百万円で、前年同期より15百万円（63.2%）減少しました。

なお、連結損益計算書上の営業利益の金額は、上記の各セグメント利益に調整を行い算定しております。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種 類	発行可能株式総数(株)
普通株式	119,628,800
計	119,628,800

###### 【発行済株式】

種 類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年4月30日)	提出日現在発行数(株) (平成29年6月9日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内 容
普通株式	26,800,000	同 左	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数100株
計	26,800,000	同 左	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成29年3月17日 (注)	800,000	26,800,000	-	13,672	-	13,336

(注) 利益による自己株式の消却による減少であります。

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (7)【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成29年4月30日現在

区 分	株式数(株)	議決権の数(個)	内 容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 2,292,800		
完全議決権株式(その他)	普通株式 24,470,700	244,707	
単元未満株式	普通株式 36,500		
発行済株式総数	26,800,000		
総株主の議決権		244,707	

## 【自己株式等】

平成29年4月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数 の合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
菱洋エレクトロ(株)	東京都中央区築地 1 12 22	2,292,800		2,292,800	8.56
計		2,292,800		2,292,800	8.56

## 2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成29年2月1日から平成29年4月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成29年2月1日から平成29年4月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年1月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年4月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	19,517	18,917
受取手形及び売掛金	29,291	28,604
有価証券	1,000	-
商品及び製品	10,582	11,323
繰延税金資産	291	358
その他	1,247	1,595
貸倒引当金	5	2
流動資産合計	61,925	60,796
固定資産		
有形固定資産	161	159
無形固定資産	630	578
投資その他の資産		
投資有価証券	13,368	14,087
退職給付に係る資産	1,216	1,244
その他	716	744
貸倒引当金	44	44
投資その他の資産合計	15,256	16,032
固定資産合計	16,048	16,770
資産合計	77,973	77,567
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,633	9,815
未払法人税等	205	216
未払消費税等	25	6
賞与引当金	186	344
その他	910	1,016
流動負債合計	10,961	11,400
固定負債		
退職給付に係る負債	778	790
繰延税金負債	1,162	1,064
その他	211	214
固定負債合計	2,153	2,069
負債合計	13,114	13,470



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年1月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年4月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	13,672	13,672
資本剰余金	13,336	13,336
利益剰余金	38,244	37,028
自己株式	3,649	2,706
株主資本合計	61,602	61,331
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,446	2,202
繰延ヘッジ損益	0	0
為替換算調整勘定	528	280
退職給付に係る調整累計額	222	222
その他の包括利益累計額合計	3,197	2,706
新株予約権	59	59
純資産合計	64,859	64,097
負債純資産合計	77,973	77,567

## ( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

( 単位：百万円 )

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年2月1日 至平成28年4月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年2月1日 至平成29年4月30日)
売上高	25,418	23,305
売上原価	23,306	21,240
売上総利益	2,112	2,065
販売費及び一般管理費		
貸倒引当金繰入額	0	2
給料及び賞与	604	595
賞与引当金繰入額	137	176
退職給付費用	34	29
賃借料	82	85
減価償却費	58	63
その他	746	789
販売費及び一般管理費合計	1,663	1,739
営業利益	448	325
営業外収益		
受取利息	11	13
受取配当金	33	10
仕入割引	3	2
為替差益	38	-
その他	12	5
営業外収益合計	99	31
営業外費用		
売上割引	1	0
投資有価証券評価損	23	-
為替差損	-	19
固定資産廃棄損	0	0
支払手数料	3	1
その他	1	3
営業外費用合計	28	25
経常利益	519	331
税金等調整前四半期純利益	519	331
法人税、住民税及び事業税	211	169
法人税等調整額	35	57
法人税等合計	175	112
四半期純利益	343	218
親会社株主に帰属する四半期純利益	343	218

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年2月1日 至平成28年4月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年2月1日 至平成29年4月30日)
四半期純利益	343	218
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	181	243
繰延ヘッジ損益	22	0
為替換算調整勘定	311	247
退職給付に係る調整額	3	0
その他の包括利益合計	148	490
四半期包括利益	195	272
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	195	272
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成28年2月1日 至 平成28年4月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成29年2月1日 至 平成29年4月30日)
減価償却費	58百万円	63百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成28年2月1日 至 平成28年4月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成28年4月27日 定時株主総会	普通株式	369	利益剰余金	15	平成28年1月31日	平成28年4月28日

2. 株主資本の金額の著しい変動

(1) 自己株式の消却

平成28年2月23日開催の取締役会決議により、会社法第178条の規定に基づき、平成28年3月2日付で自己株式600,000株を消却いたしました。これにより、利益剰余金及び自己株式がそれぞれ7億3百万円減少しております。

(2) 自己株式の取得

平成28年3月9日開催の取締役会決議により、会社法第165条第3項の規定に読み替えて適用される同法第156条第1項の規定に基づき、自己株式150,000株を取得いたしました。これにより、当第1四半期連結累計期間において自己株式が1億99百万円増加し、当第1四半期連結会計期間末において自己株式の額が36億49百万円となっております。

当第1四半期連結累計期間(自 平成29年2月1日 至 平成29年4月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年4月27日 定時株主総会	普通株式	490	利益剰余金	20	平成29年1月31日	平成29年4月28日

2. 株主資本の金額の著しい変動

平成29年3月9日開催の取締役会決議により、会社法第178条の規定に基づき、平成29年3月17日付で自己株式800,000株を消却いたしました。これにより、利益剰余金及び自己株式がそれぞれ9億44百万円減少しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成28年2月1日至平成28年4月30日)  
 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	日本	アジア	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	21,328	4,089	25,418	-	25,418
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,045	90	2,136	2,136	-
計	23,374	4,180	27,555	2,136	25,418
セグメント利益	417	23	441	7	448

(注)1.セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。

2.セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自平成29年2月1日至平成29年4月30日)  
 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	日本	アジア	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	19,670	3,634	23,305	-	23,305
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,920	95	2,015	2,015	-
計	21,590	3,730	25,321	2,015	23,305
セグメント利益	325	8	334	8	325

(注)1.セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。

2.セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年2月1日 至平成28年4月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年2月1日 至平成29年4月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	13円98銭	8円92銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	343	218
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	343	218
普通株式の期中平均株式数(千株)	24,582	24,507
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	13円91銭	8円89銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額 (百万円)	-	-
普通株式増加数(千株)	124	102
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年6月9日

菱洋エレクトロ株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 山本 美晃 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 鹿島 高弘 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている菱洋エレクトロ株式会社の平成29年2月1日から平成30年1月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成29年2月1日から平成29年4月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成29年2月1日から平成29年4月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、菱洋エレクトロ株式会社及び連結子会社の平成29年4月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれておりません。